

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4570200669		
法人名	社会福祉法人豊の里		
事業所名	グループホーム2ユニットしらゆり		
所在地	宮崎県都城市下長飯町1640番地 (電話) 0986-39-3993		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年7月16日	評価確定日	平成20年9月5日

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは市街地から離れ、水田の広がる土地の小高い場所に位置している。敷地には特別養護老人ホームやデイサービスセンターなど種々の施設がある。そのなかで、利用者と職員はお互いに協力しながら生活されている。敷地内の散歩は毎日の日課となっており、外の空気に触れ、季節を感じて利用者の気分転換となっている。また、おやつ作りや配膳では利用者が主体となり、来客への対応は職員も利用者から学ぶところがあるようである。立地的に地域から孤立しがちであるが、地域行事に参加するなど積極的にかかわり取り組んでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 職員全員が施設に対する弊害の意識を持ち、話し合いもされているが、地理的に見通しが悪く、はいかひの頻度が高い利用者があるため、施設を行なっている状況である。職員の引き継ぎについてはお別れ会や行事での紹介で工夫している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）  自己評価には職員全員で取り組み、外部評価の結果についても話し合いを行い改善へ向けて取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）  今年度は昨年度より頻度を多く、2か月に1回開催することを目標に実施している。市職員、民生委員、家族会等が参加し出された意見に対して取り組んでいる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）  重要事項説明書にて紹介されている。また、ホームの共用スペースにポスターにて相談窓口の掲示がされている。
重点項目③	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）  職員が公民館の花植え等に参加する等、積極的に地域に交流を働きかけている。家族の方の提案で裁縫の上手な利用者の方々にぞうきんやお手玉を作ってもらい、小学校や保育所に寄贈する予定であり、利用者地域がつながるよう取り組んでいる。

## 【情報提供票より】（平成20年6月19日事業所記入）

### （1）組織概要

開設年月日	昭和・平成13年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤10人、非常勤3人、常勤換算5.9人	

### （2）建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1階建ての	1階部分	

### （3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	45,500 円	その他の経費（月額）	実費 円
敷金	有（ 円） 無		
保証金の有無（入居一時金含む）	有（100,000円） 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		950 円

### （4）利用者の概要（平成20年6月19日現在）

利用者人数	18名	男性	0名	女性	18名	
要介護1	2	要介護2	5			
要介護3	5	要介護4	5			
要介護5	1	要支援2	0			
年齢	平均	85.8歳	最低	72歳	最高	98歳

### （5）協力医療機関

協力医療機関名	豊栄クリニック
---------	---------

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着、在宅と同様にといった要素を含めた事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日理念の唱和を行っている。また、管理者からも理念の実践について指導が行われている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員が公民館の花植え等に参加する等、積極的に地域に交流を働きかけている。家族の方の提案で裁縫の上手な利用者の方々にぞうきんやお手玉を作ってもらい、小学校や保育所に寄贈する予定であり、利用者と地域がつながるよう取り組んでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価には職員全員で取り組み、外部評価の結果についても話し合いを行い改善へ向けて取り組んでいる。		

宮崎県都城市 グループホーム2ユニットしらゆり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は昨年度より頻度を多く、2か月に1回開催することを目標に実施している。市職員、民生委員、家族会等が参加し、出された意見に対して取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員が月に2回訪問されて、利用者と交流されている。また、職員も市役所に出向き法令関係の情報を入手する等の連携を図っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回ホーム便りを配布している。また、家族来訪時や電話連絡を定期的に行い利用者の近況を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にて紹介されている。また、ホームの共用スペースにポスターで相談窓口の掲示がされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所の都合、あるいは採用者・退職者の都合で引き継ぎに時間を取れない場合があるが、お別れ会や行事を機会に紹介を行う等工夫をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修、事業所内の月1回の勉強会、外部研修への参加を行い、報告会で全員が共有できるように取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人の3つのグループホームの管理者間で交流が行われているが、それ以外では行われていない。	○	法人以外のグループホームとも交流して、相互に学ぶ機会を作り共に質の向上につながることを期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や利用者が何度か訪問されて他の利用者との交流の機会を作り、さらに、職員が利用者宅を訪問する等、なじめるように工夫をされている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調査員訪問時に来客時のお茶の出し方について利用者が意見を言われて、職員が感心される場面もみられた。職員と利用者の交流は穏やかであり、お互いに信頼している様子である。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に利用者から話を聞いている。また、自分の思いを伝えられない利用者も家族から話を聞いたり、生活歴や表情から思いや意向を把握するように努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人とその家族や担当者の意見を聞き、また、利用開始から一週間は24時間観察して記録をとり、ある程度経過を見守り計画の立案を行なっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に一度見直しを行い、家族からも計画について確認を行なっている。また、急変時にも随時行なっている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループ法人の医療機関と連携をとり、他科受診の際に職員が同行している。さらに、理容についても職員が提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に法人と連携している医療機関を掛かりつけ医として紹介して、利用者や家族に納得してもらっている。また、他の医療機関に対しても支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居前に利用者・家族と重度化や終末期の方針について話し合い、納得してもらえるようにしている。その後も随時話し合いの機会を設けている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	入浴や排泄について声かけや他の利用者に気づかれないように工夫している。また、居室に鍵ができるように希望される利用者に対して対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループ内の予定や行事はあるが、利用者一人ひとりの生活リズムに配慮して、柔軟に対応できるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事ペースが早い利用者もいたが、多くの方がゆっくりと自分のペースで食べている。また、食事の配膳は利用者が主体となってされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在は週4回、午後3時から6時に行いパターン化している面はあるが、入浴拒否のある方も入ってもらえるように声かけを工夫している。また、他の時間帯でも支援できる体制はできている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴に合わせて、さまざまな活動の道具が用意されている。また、おやつ作りなどは利用者が主体になって調理・盛りつけ・配膳がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩を日課としている。さらに、買い物や遠足、利用者宅へ他の利用者と共に訪問する等外出の援助を積極的に行なっている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が施錠に対する弊害の意識を持ち、話し合いもされているが、地理的に見通しが悪く、はいかいの頻度が高い利用者があるため、施錠を行なっている。	○	現在の施錠せざるを得ない状況でも、職員全員で考え、施錠をしなくても済むように取り組んでほしい。

宮崎県都城市 グループホーム2ユニットしらゆり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回、防災訓練計画に沿って行なわれて、職員の防災意識もあるが、地域と連携した訓練がされていない。	○	今後、地域へ働きかけて、共同で訓練する機会を作ってほしい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は法人内の管理栄養士が行ない利用者一人ひとりに合わせた形態で提供されている。水分摂取についてもこまめに行なっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光は十分で調節も可能である。外には花壇が置かれ季節感を演出している。利用者一人ひとりが居心地よく過ごせるように、ソファの配置を工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはなじみの家具や物品が置かれ、利用者の個性が出ている。あまり物が置かれていない方についても家族との話はされている。		

※  は、重点項目。